

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>岩手県産オリジナル品種、岩手107号の生産について</p> <p>国は、平成30年産から米交付金を廃止し、生産数量目標の配分についても見直しを行うこととしております。また、平成26年産の大幅な米価下落や、全国的なコメの消費量の減少、TPPの影響など、コメをめぐる情勢には不安要素も多い中で、岩手県のオリジナル品種で、あきたこまちに替わる品種となる岩手107号は、あきたこまちよりも良食味、耐冷性・耐病性に強く、収量性も多収、耐倒状性に優れ、割れ粳も少ないとされており、このような新品种開発は、明るい話題であり大きな期待を寄せているところです。</p> <p>「みんなのお米107プロジェクト」取組計画によれば、岩手107号は本年11月に名称が決定され平成28年産から販売が開始される計画となっています。また、栽培計画は、平成28年産が100ha、平成29年産が600ha、平成30年産で1,000ha、平成31年産で2,000haと段階を経て、平成32年に1万haとされております。</p> <p>本町は、平成26年産米のあきたこまち作付が約1,700haで全体の85%以上を占めておりますが、県の栽培計画では本町の品種全面切替は早くても平成31年産以降となることが予想され、県内の他の地域での栽培も勘案すれば、あきたこまちからの品種の切り替えは、かなり先のことになることも予想されます。</p> <p>本町では、あきたこまちに替わる品種として岩手107号を積極的に推進したいと考えており、早期の切り替えにより、食味の良さ等を大きくアピールし、全国的にも消費者に支持されるブランドとなるよう町としても生産者やJAと連携しながら生産販売を促進し、農家所得の確保等にも繋げていきたいと考えております。</p> <p>そのためには、今後の栽培計画面積の前倒しと種もみ量の増量確保、地域別栽培面積の配分などを含め、地域の栽培希望に合わせた形であきたこまちからの切り替えを早期に実施できるような対策を講ずるよう要望します。</p>	<p>岩手107号については、食味ランキングで「特A」評価を取得できる米として普及させていくため、「岩手107号研究会」を設置し、品種特性について情報共有を図っているほか、栽培マニュアルの作成や作付農家選定基準を設け、品質を優先させる取組を徹底することとしています。</p> <p>種子については、1年でも早く市場にデビューさせ、実需者の評価を獲得するため、栽培初年度は、県農業研究センターから直接供給することとしていますが、平成29年度以降は通常どおりの方法で計画的に供給していくこととしています。</p> <p>県としては、岩手107号を確実に全国ブランド品種に育成するため、岩手107号研究会における検討結果等を踏まえ、関係する市町村、農協と一体となって、計画的に作付面積の拡大を図っていく考えです。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>「いわて銀河ファーム戦略」に基づく南畑地区の整備について</p> <p>平成16年5月策定の「いわて銀河ファーム戦略」の具現化に向け、岩手県、公益社団法人岩手県農業公社、特定非営利活動法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク及び雫石町の4者協議会「いわて銀河ファームプロジェクト連絡協議会」を設置し、現在は、平成25年2月21策定の第3期南畑活性化方策（平成25～29年度）に基づく農村交流・体験等の良好な環境づくりなどの取り組みを進めているところであります。平成20年度には4者協議会に民間企業を加えた「南畑地域協議会」が設立されて、2つの協議会という体制で「コテージむら」の活性化方策の推進活動を行っております。</p> <p>町では、平成14年6月の岩手県との協議結果等を踏まえ、平成17年度までに町が都市と農村の交流拠点としての環境整備に資する施設整備してきたほか、体験農園での交流や景観作物栽培等、交流促進エリアを中心に取り組んできております。</p> <p>協議会設立から現在に至るまで、最重点事項は『コテージむらへの定住促進』であり、昨年度の県回答でも「コテージむらでの農的暮らしを希望する方々の定住促進が極めて重要な課題」とされており、これまで町は、標記要望項目について県による主体的な課題解決を継続要望しておりますが、4者協議会の設立から10年以上経過しているなかで、定住者の増加については遅々として進んでいないことも事実であります。</p> <p>こうした中で、平成26年11月成立の「まち・ひと・しごと創生法」により、全ての地方公共団体が、人口減少の歯止め、東京一極集中の是正に向けた人口ビジョンと地方版総合戦略策定を進めているところであります。</p> <p>今般の地方創生による地方版総合戦略は、少子高齢化、人口減少、首都圏人口集中是正のために首都圏から地方への移住促進等を図るものであり、本町にあって公益社団法人岩手県農業公社が所有するコテージむらはまさに格好の地域であり、長年の課題解決に向けても絶好の機会でもあると考えます。</p> <p>については、現在、岩手県が策定を進めている地方版総合戦略において、この「コテージむら」地域を移住促進等のためのモデル地域とし、具体的な戦略を策定から実践に繋げ、当町で整備した施設や岩手県農業公社の計画と一体となった移住促進・定住化についての目に見える進展が図られるよう強く要望いたします。</p>	<p>南畑地区は、食と農を基幹とした地域産業の創造による活性化を目指した「いわて銀河ファーム戦略」の地域モデルであります。県は、「いわて銀河ファームプロジェクト連絡協議会」の一員として、「第3期南畑地区活性化方策」に位置付けられているように、定住の促進と交流の拡大を重要な課題と捉え、国庫補助事業や地域経営推進費などを活用し、地域が行う交流イベントの支援や、より効果的な情報発信手法の検討などに取り組んでいるところで</p> <p>一方、県が「まち・ひと・しごと創生法」に基づき策定を進めている地域版総合戦略においても、骨子案では、「農林水産業の振興」と「移住・定住の支援」を戦略の基本目標を実現するための取組として位置付けており、南畑地区での取組方向と合致するものと考えています。</p> <p>県としても、社会のこうした地方創生や田園回帰への関心の高まりを好機と捉え、これまでの取組の成果を活用しつつ、南畑地区での定住及び交流が拡大し活性化が促進されるよう、引き続き、地域での取組の中心的役割を担っている「南畑地域協議会」の活動を支援していきます。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>治山堰堤の機能維持及び回復について</p> <p>本町では、平成25年8月9日の豪雨災害による大規模な災害から間もなく2年を迎えますが、発災以来、県からも多大なご支援ご協力をいただいておりますが、今年度で災害復旧事業を完了すべく鋭意取り組んでいるところでございます。</p> <p>本町の西に位置する志戸前川流域でも大規模な災害が複数箇所が発生しましたが、県におかれましては、平成25年度にスリット機能の回復を目的とした河道掘削工として県単治山（施設維持補修）事業を実施していただき、実施箇所は当面の治山施設としての機能を回復していただきました。</p> <p>この箇所を含めた志戸前川流域における治山堰堤は、昭和30年代からこれまでに大地沢、岩井沢を含め80基以上を設置していただいておりますが、築堤から半世紀近くを経過するものもあり、これまで食い止めてきた土砂が堰堤の許容量を上回る堆積量となっております。</p> <p>昨年度の本町からの要望に対して、志戸前川流域の治山施設の機能の維持・回復の重要性を認めていただき、早い時期の調査及び対策実施に取り組んでいただけるとの取組方針をお示しいただいております。</p> <p>今年度も各地で局地的な豪雨が頻繁に発生し年々常態化してきているなかで、同地域は町内でも降雨量が多い地域で、これまでも度々林道災害も発生している地域であります。治山堰堤設置の目的である土石流の発生時の下流への土石や倒木の流出抑止や、土砂等の堆積による溪床勾配の緩和による侵食防止及び山脚を固定して山地の崩壊を未然に防ぐ機能を発揮するためにも、平成25年度に県単治山（調査）事業として計画された、広範囲にわたる溪流の荒廃への総合的な対策検討の調査及び対策事業について、早期に実施していただくよう要望いたします。</p>	<p>県では、平成25年8月の豪雨により雫石町をはじめ管内各市町において甚大な山地災害が発生したことから、緊急性が高い箇所から順次対策を実施しているところです。</p> <p>要望のありました志戸前川流域については、溪流の安定等の観点から治山施設の機能の維持・回復等総合的な対策が重要と考えており、できるだけ早い時期にその調査及び対策が実施できるよう取り組んでいきます。</p>	盛岡広域振興局	林務部	B

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>安定した多面的機能発揮促進事業の実施と日本型直接支払に係る財政負担軽減について</p> <p>平成26年度に創設された日本型直接支払は、平成27年4月1日施行の「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」により法制化され、同法第3条第3項の「多面的機能発揮促進事業」に係る多面的機能支払交付金については、農林水産省が作成したパンフレットにおいても「法律に基づいた安定的な制度として、地域の共同活動を支援します。」とされております。</p> <p>平成27年度からは、市町村が活動組織の事業計画の認定するとともに、交付金の支払いも市町村を通じて行われることとなり、町では歳出予算に交付金単価に基づく見込額全額を計上するとともに、歳入予算に国・県からの支出金歳入（交付金見込額の4分の3（国2分の1、県4分の1））を計上しております。</p> <p>県では平成27年度の交付額について、国からの割当予定額（県要求額85%）を勘案し市町村への交付については、交付金のうち農地維持支払交付金と資源向上支払交付金の共同活動分について満額交付とし、資源向上支払交付金の長寿命化分を抑制するとの方針を示しております。</p> <p>しかしながら、活動組織における施設長寿命化への取組みにおいては、計画事業の実施のための資材発注等を既に行った組織もあると聞き及んでおり、交付見込額が大幅に減額される可能性がある状態では、今後の活動や事業実施にも大きな支障を及ぼすこととなります。</p> <p>については、県におきまして国に対し交付単価設定に基づく事業計画からの算定額の国負担分の満額確保の働きかけを実施していただき、町内の活動組織に対する交付金の確保と早期の交付が行われるよう要望いたします。</p> <p>また、多面的機能支払交付金に係る市町村負担については、市町村負担4分の1の6割を普通交付税（農地面積での補正）で、残余の6割を特別交付税（3月交付）とされているものの、町負担額に対する実質的交付額は不透明であり、町の財政負担は非常に大きいと言わざるを得ません。仮に町内全域での取組みが行われた場合には満額交付額のための町財政負担は約9千万円前後が見込まれ、法制下による経常的負担も見込まれます。</p> <p>同法の基本理念にもあるように、農業・農村の多面的機能維持は、特定の地域の住民のみならず国民、県民全体が享受するものであることから、制度の安定的な実施に向けて、多面的機能支払に取り組む市町村の財政負担の更なる軽減を講じるよう強く要望いたします。</p>	<p>1. 県では、国からの交付金配分が不足していることから、平成27年度予算の追加措置を国に要望したところです（6月3日、知事から農林水産省農村振興局宛て要望書提出）。</p> <p>なお、地域の実情に応じて、平成27年度から農地維持支払及び資源向上支払の共同活動分の一部を施設の長寿命化の活動に充てることが可能となりましたので、御検討願います。</p> <p>2. 県では、市町村からの声を踏まえ、多面的機能の発揮による効果は国民全体が享受することから、地方自治体の負担を軽減するため地方財政措置の充実について国に要望しております（6月3日、知事から農林水産省農村振興局宛て要望書提出）。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>B</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>御所防災ダム管理について</p> <p>近年、局地的に短期集中的な豪雨の発生も頻繁となっていており、防災ダムは県民の生命・財産を守る観点からも重要な施設でもあり、平成25年8月9日の暴雨災害時においてもダム機能をはるかに超える雨量があったにも関わらず、下流域への2次災害を招くことなく維持できているところであります。</p> <p>御所防災ダムの管理については、岩手県より本町が委託を受けて操作、点検等の管理を行っており、町としても、流域における防災等のための万全な管理に努めてきているところでございますが、県からは管理事務所の建替えや定期的な機器更新費用、必要な施設管理費用についても配意いただいている中、近年の電力料金の値上げ等は以前までより増額がやむを得ないものも、出てきていることも実態であります。</p> <p>については、当該業務に係る予算の確保について、引き続き特段の御高配をお願いいたします。</p>	<p>県では、昭和44年4月1日から県営御所防災ダム事業で造成された御所防災ダム群の管理を雫石町へ委託し、これまで適切に管理いただいているところです。</p> <p>また、管理に要する経費については、管理委託協定に基づき、毎年度、雫石町と協議のうえ取り決めているところです。</p> <p>県としては、今後も防災ダムの重要性に鑑み、昨今の電気料金の高騰を踏まえ、ダムの適切な維持・管理に必要な予算の確保に努めて参ります。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>いわて雪まつりの活性化支援策について</p> <p>1. 仙台、首都圏など大都市圏に対するいわて雪まつりPRの支援策</p> <p>いわて雪まつりは、昭和44年に小岩井農場が開催した「小岩井かまくら」が第1回となっています。第2回では民間企業などの資金援助を得て雪像を制作して「いわて雪まつり」の原型となり、第4回から小岩井かまくらを小岩井農場だけのイベントとせず、岩手県を代表する冬季イベントとして開催することとし、実施主体が民間、行政の協力により設置した「いわて雪まつり実行委員会」となり、名称も「いわて雪まつり」として開催された経緯があります。</p> <p>最近では、大型滑り台と3基のメイン雪像を中心にテーマ雪像、かまくら、氷像で構成された会場内において、ステージイベントの開催、馬ソリやスノートレインなどのアトラクションのほか屋台村でのご当地グルメやかまくらの中でのジンギスカン、毎日打ち上げられる花火を観光客の皆さんに楽しんでいただく冬的一大イベントとして定着してきました。</p> <p>しかし、昨今の情勢の変化等により、行政の負担金、民間の協賛によりまかなってきた実行委員会の予算も減少傾向にあるほか、最近の旅行者の「安い、近い、短時間」の旅行動向により仙台、首都圏からの旅行者の増加が見込めない状況であり、毎年度目標に掲げる「開催期間中の来場者数30万人」が達成できておりません。</p> <p>実行委員会としても、近隣の雪まつり実施団体との情報交換などを実施して内容のマンネリ化の防止対策を図っているほか、知名度が低い青森県、秋田県に対してのPR強化策を講じるなど、来場者の増加に向け取り組みを進めているところですが、来場者数の増加に効果的な手段が見つかっていない状況です。</p> <p>いわて雪まつりは、平成29年（2017年）に第50回を迎えますが、この記念すべき第50回開催を契機に、県として岩手を代表する冬的一大イベントとしての認識のもと、「いわて雪まつり」の活性化に対する継続的な支援策として、次の5点について要望いたします。</p> <p>1. 仙台、首都圏など大都市圏に対するいわて雪まつりPRの支援策</p>	<p>いわて雪まつりは、県央地域における冬期の代表的な観光素材の一つと認識しており、県としても「うまっ！いわて秋冬期観光キャンペーンガイドブック（全県版）」や「エリアガイドブック（県央）」への掲載、宿泊旅行予約サイトや雑誌等への情報掲載を通じてPRに努めています。</p> <p>今後も、引き続き各種広告媒体を通じての情報発信や首都圏誘客イベント等での積極的なPR活動に努めて参ります。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>いわて雪まつりの活性化支援策について</p> <p>2. いわて雪まつりを中心とした冬季周遊観光商品作成への支援策</p> <p>いわて雪まつりは、昭和44年に小岩井農場が開催した「小岩井かまくら」が第1回となっています。第2回では民間企業などの資金援助を得て雪像を制作して「いわて雪まつり」の原型となり、第4回から小岩井かまくらを小岩井農場だけのイベントとせず、岩手県を代表する冬季イベントとして開催することとし、実施主体が民間、行政の協力により設置した「いわて雪まつり実行委員会」となり、名称も「いわて雪まつり」として開催された経緯があります。</p> <p>最近では、大型滑り台と3基のメイン雪像を中心にテーマ雪像、かまくら、氷像で構成された会場内において、ステージイベントの開催、馬ソリやスノートレインなどのアトラクションのほか屋台村でのご当地グルメやかまくらの中でのジンギスカン、毎日打ち上げられる花火を観光客の皆さんに楽しんでいただく冬の一大イベントとして定着してきました。</p> <p>しかし、昨今の情勢の変化等により、行政の負担金、民間の協賛によりまかなってきた実行委員会の予算も減少傾向にあるほか、最近の旅行者の「安い、近い、短時間」の旅行動向により仙台、首都圏からの旅行者の増加が見込めない状況であり、毎年度目標に掲げる「開催期間中の来場者数30万人」が達成できておりません。</p> <p>実行委員会としても、近隣の雪まつり実施団体との情報交換などを実施して内容のマンネリ化の防止対策を図っているほか、知名度が低い青森県、秋田県に対してのPR強化策を講じるなど、来場者の増加に向け取り組みを進めているところですが、来場者数の増加に効果的な手段が見つかっていない状況です。</p> <p>いわて雪まつりは、平成29年(2017年)に第50回を迎えますが、この記念すべき第50回開催を契機に、県として岩手を代表する冬の一大イベントとしての認識のもと、「いわて雪まつり」の活性化に対する継続的な支援策として、次の5点について要望いたします。</p> <p>2. いわて雪まつりを中心とした冬季周遊観光商品作成への支援策</p>	<p>県においては、通年型観光地の確立に向け、秋冬期に利用が可能な観光素材を活用した新たな旅行商品の造成を促進するため、いわて観光キャンペーン推進協議会において、造成費用への助成事業を実施しておりますので、御活用を検討くださるようお願いいたします。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>いわて雪まつりの活性化支援策について</p> <p>3. いわて雪まつり会場内に「岩手県」作成の雪像1基製作</p> <p>いわて雪まつりは、昭和44年に小岩井農場が開催した「小岩井かまくら」が第1回となっています。第2回では民間企業などの資金援助を得て雪像を制作して「いわて雪まつり」の原型となり、第4回から小岩井かまくらを小岩井農場だけのイベントとせず、岩手県を代表する冬季イベントとして開催することとし、実施主体が民間、行政の協力により設置した「いわて雪まつり実行委員会」となり、名称も「いわて雪まつり」として開催された経緯があります。</p> <p>最近では、大型滑り台と3基のメイン雪像を中心にテーマ雪像、かまくら、氷像で構成された会場内において、ステージイベントの開催、馬ソリやスノートレインなどのアトラクションのほか屋台村でのご当地グルメやかまくらの中でのジンギスカン、毎日打ち上げられる花火を観光客の皆さんに楽しんでいただく冬の一大イベントとして定着してきました。</p> <p>しかし、昨今の情勢の変化等により、行政の負担金、民間の協賛によりまかなってきた実行委員会の予算も減少傾向にあるほか、最近の旅行者の「安い、近い、短時間」の旅行動向により仙台、首都圏からの旅行者の増加が見込めない状況であり、毎年度目標に掲げる「開催期間中の来場者数30万人」が達成できておりません。</p> <p>実行委員会としても、近隣の雪まつり実施団体との情報交換などを実施して内容のマンネリ化の防止対策を図っているほか、知名度が低い青森県、秋田県に対してのPR強化策を講じるなど、来場者の増加に向け取り組みを進めているところですが、来場者数の増加に効果的な手段が見つかっていない状況です。</p> <p>いわて雪まつりは、平成29年(2017年)に第50回を迎えますが、この記念すべき第50回開催を契機に、県として岩手を代表する冬の一大イベントとしての認識のもと、「いわて雪まつり」の活性化に対する継続的な支援策として、次の5点について要望いたします。</p> <p>3. いわて雪まつり会場内に「岩手県」作成の雪像1基製作</p>	<p>県としても「いわて雪まつり」の活性化を支援して参りたいと考えており、現在も各種広告媒体等を通じた情報発信に努めているところですが、御提言の内容も含め、県としての更なる支援のあり方については今後検討して参ります。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>いわて雪まつりの活性化支援策について</p> <p>4. いわて雪まつり実行委員会への負担金支援</p> <p>いわて雪まつりは、昭和44年に小岩井農場が開催した「小岩井かまくら」が第1回となっています。第2回では民間企業などの資金援助を得て雪像を制作して「いわて雪まつり」の原型となり、第4回から小岩井かまくらを小岩井農場だけのイベントとせず、岩手県を代表する冬季イベントとして開催することとし、実施主体が民間、行政の協力により設置した「いわて雪まつり実行委員会」となり、名称も「いわて雪まつり」として開催された経緯があります。</p> <p>最近では、大型滑り台と3基のメイン雪像を中心にテーマ雪像、かまくら、氷像で構成された会場内において、ステージイベントの開催、馬ソリやスノートレインなどのアトラクションのほか屋台村でのご当地グルメやかまくらの中でのジンギスカン、毎日打ち上げられる花火を観光客の皆さんに楽しんでいただく冬の一大イベントとして定着してきました。</p> <p>しかし、昨今の情勢の変化等により、行政の負担金、民間の協賛によりまかなってきた実行委員会の予算も減少傾向にあるほか、最近の旅行者の「安い、近い、短時間」の旅行動向により仙台、首都圏からの旅行者の増加が見込めない状況であり、毎年度目標に掲げる「開催期間中の来場者数30万人」が達成できておりません。</p> <p>実行委員会としても、近隣の雪まつり実施団体との情報交換などを実施して内容のマンネリ化の防止対策を図っているほか、知名度が低い青森県、秋田県に対してのPR強化策を講じるなど、来場者の増加に向け取り組みを進めているところですが、来場者数の増加に効果的な手段が見つかっていない状況です。</p> <p>いわて雪まつりは、平成29年（2017年）に第50回を迎えますが、この記念すべき第50回開催を契機に、県として岩手を代表する冬の一大イベントとしての認識のもと、「いわて雪まつり」の活性化に対する継続的な支援策として、次の5点について要望いたします。</p> <p>4. いわて雪まつり実行委員会への負担金支援</p>	<p>県としても「いわて雪まつり」の活性化を支援して参りたいと考えており、現在も各種広告媒体等を通じた情報発信に努めているところですが、御提言の内容も含め、県としての更なる支援のあり方については今後検討して参ります。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>C</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>いわて雪まつりの活性化支援策について</p> <p>5. いわて雪まつり雪像製作開始式及び雪像引き渡し式への知事の出席</p> <p>いわて雪まつりは、昭和44年に小岩井農場が開催した「小岩井かまくら」が第1回となっています。第2回では民間企業などの資金援助を得て雪像を制作して「いわて雪まつり」の原型となり、第4回から小岩井かまくらを小岩井農場だけのイベントとせず、岩手県を代表する冬季イベントとして開催することとし、実施主体が民間、行政の協力により設置した「いわて雪まつり実行委員会」となり、名称も「いわて雪まつり」として開催された経緯があります。</p> <p>最近では、大型滑り台と3基のメイン雪像を中心にテーマ雪像、かまくら、氷像で構成された会場内において、ステージイベントの開催、馬ソリやスノートレインなどのアトラクションのほか屋台村でのご当地グルメやかまくらの中でのジンギスカン、毎日打ち上げられる花火を観光客の皆さんに楽しんでいただく冬の一大イベントとして定着してきました。</p> <p>しかし、昨今の情勢の変化等により、行政の負担金、民間の協賛によりまかなってきた実行委員会の予算も減少傾向にあるほか、最近の旅行者の「安い、近い、短時間」の旅行動向により仙台、首都圏からの旅行者の増加が見込めない状況であり、毎年度目標に掲げる「開催期間中の来場者数30万人」が達成できておりません。</p> <p>実行委員会としても、近隣の雪まつり実施団体との情報交換などを実施して内容のマンネリ化の防止対策を図っているほか、知名度が低い青森県、秋田県に対してのPR強化策を講じるなど、来場者の増加に向け取り組みを進めているところですが、来場者数の増加に効果的な手段が見つかっていない状況です。</p> <p>いわて雪まつりは、平成29年(2017年)に第50回を迎えますが、この記念すべき第50回開催を契機に、県として岩手を代表する冬の一大イベントとしての認識のもと、「いわて雪まつり」の活性化に対する継続的な支援策として、次の5点について要望いたします。</p> <p>5. いわて雪まつり雪像製作開始式及び雪像引き渡し式への知事の出席</p>	<p>これまで御案内いただいております雪像引き渡し式につきましては、知事の日程調整により出席可能な場合には知事が出席させていただいているものもございます。</p> <p>式典の出席につきましては、日程も含め御案内いただいた内容に応じて調整させていただくこととなりますので、御理解くださるようお願いいたします。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>町道雫石環状線の県道昇格について</p> <p>町道雫石環状線の県道認定について、残りの区間について引き続き要望するものであります。</p> <p>本路線は、本町と矢巾町及び滝沢市を結ぶ中心的幹線であり、岩手県が策定した「盛岡地方広域営農団地整備事業計画」により農道網として整備されました。</p> <p>整備の目的は、本町の北部、西部、南部を結ぶ主要幹線としての役割と、盛岡広域圏をはじめ県南地域と秋田県及び西和賀地域との相互交通を結ぶ、極めて利便性が高い重要なアクセス路線として整備されたものであります。</p> <p>本路線のうち、国道46号交差点から北上し滝沢市へ至る区間については、秋田県方面と岩手県北部を結ぶ交通路線として、特に大型車等の通行条件が良い本路線及び改良整備が行われた県道鶴飼滝沢線ルートが利用されており、その利便性から本路線の交通量は年々増加の傾向にあります。</p> <p>また、国道46号交差点から南下し県道矢巾西安庭線と合流する区間については、途中から主要地方盛岡横手線からの車両も加わり、秋田県南及び西和賀町方面と盛岡広域圏及び岩手流通センターを最短で結ぶルートとなっており、相互通行する業務系車両の通行量は年々増加の一途をたどっております。</p> <p>このことから、広域行政を担う岩手県におかれましては、町道雫石環状線を県南部、県北部、西和賀地域、そして秋田県を結ぶ広域的幹線道路として位置付けるべき必要性をご理解いただき、早期に県道として認定していただくことを要望します。</p>	<p>県道昇格については、市町村間を結ぶ道路など道路法に規定する認定要件を具備する必要があり、これらの要件を満たした路線について、地域の道路網における市町村道との機能分担や、整備・管理する必要性等を総合的に判断した上で行うこととしています。</p>	<p>盛岡広域 振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>県道の歩道整備について（長山地内の通学路区間への歩道整備） 長山地内の一般県道雫石東八幡平線の歩道整備につきましては、J A新岩手（旧）西山支所付近約300m区間は、車道が狭い上、歩道がなく危険な箇所となっております。</p> <p>この付近には町立西山公民館や西山保育園等の公共施設があることから交通量も多く、町立上長山小学校及び下長山小学校への通学路にもなっており、学校をはじめ地域から強く要望を受けているところであります。当該区間のうち一部区間においては平成26年度から整備に向け着手していただいているところではあります。さらに、起点側未着手区間に関しましても、事業着手していただきますよう、お願いするものであります。</p> <p>第9次交通安全基本計画（中央交通安全対策会議、平成23年3月策定（平成23年度から27年度までの5カ年計画））において、基本理念として「人優先の交通安全思想」が掲げられ、少子高齢社会への対応として「子どもを事故から守る観点からの交通安全対策が一層求められ、通学路等において歩道等の歩行空間の整備を積極的に推進する必要がある」とされているところであります。</p> <p>当該箇所については、毎年6月の交通安全施設総点検でも継続して要望が出されている区間であり、さらに平成24年4月以降、全国で登下校中の児童が巻き込まれる交通事故が相次いだことから、国土交通省、文部科学省、警察庁の3省庁が連携し、学校、教育委員会、道路管理者、所轄警察署などの関係機関が協働して、緊急合同点検を実施した結果、危険箇所として指摘を受けた区間でもあります。</p> <p>道路を通行する児童をはじめ歩行者の安全を確保するため当該区間の早期の歩道の整備の実施について要望いたします。</p>	<p>歩道整備については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。</p> <p>御要望の区間のうち、J A新岩手（旧）西山支所付近約240m区間については、平成27年度に用地測量を実施する予定です。</p> <p>西山診療所前の約120m区間については、沿道状況等を踏まえて検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1級町道滝沢・安庭線 昇瀬橋架け替え事業の県代行事業要望について</p> <p>1級町道滝沢・安庭線は、国道46号赤渕地内を起点とし、御明神地区と西安庭地区を経由し、主要地方道盛岡横手線に接続する1級町道であります。起点付近にある昇瀬橋は、架橋後51年経過しており、老朽化が著しいうえ幅員も5.0mと狭く大型車のすれ違いや緊急車両の走行に支障をきたしている状況にあります。</p> <p>一方で秋田方面から本路線および一般県道西安庭矢巾線を経由し、矢巾町の流通センターに向かう最短ルートとなっており、大型車の通行量が年々多くなっている状況であります。また、本路線は、町の地域防災計画で緊急輸送路に指定されていることと、過去には、集中豪雨による土砂崩れで国道46号が通行止めになった際の迂回路となっております。</p> <p>このようなことから、昇瀬橋の拡幅改良整備は、災害時の緊急輸送路や国道46号迂回路としての重要な役割を果たすものであり、「安心して暮らせる町づくり」を目標に掲げる本町にとって喫緊の課題であります。</p> <p>なお、当該橋梁は95mと長く起点側が国道46号と交差していることから、国道への右折レーン設置とこれに伴う国道橋拡幅等もあり、難易度が高く、相当な費用を要する事業となります。</p> <p>つきましては、このような状況も踏まえ、財政状況が厳しい中ではありますが、防災機能を持つ昇瀬橋架け替え事業について、県代行事業として要望しますので、採択に向けた県のご支援をよろしくお願いいたします。</p>	<p>県代行事業による道路整備については、事業の必要性、緊急性、重要性等が高く、用地補償が完了した箇所の中から、県全体の道路整備状況を踏まえ総合的に検討していきませんが、早期の事業化は難しい状況です。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>C</p>

雫石町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>北上川上流流域下水道事業鶯宿幹線の整備促進について</p> <p>北上川上流流域下水道事業鶯宿幹線は県事業として平成17年度に事業着手し現在繋ポンプ場から県道盛岡鶯宿温泉線戸沢橋付近まで整備を進めて頂いております。</p> <p>また、関連する当町の公共下水道事業の整備については、県の流域事業と併せて鶯宿幹線沿いを重点的に進めており、町場地区から天戸東地区が供用され、鶯宿温泉までが整備計画区間となっております。</p> <p>今年度の事業については、公共下水道は天戸西地区及び片子沢地区で面整備を進め、流域下水道は戸沢橋への汚水管添架工事を昨年度から引き続き行うとのことです。</p> <p>なお、天戸西地区には住宅団地があり、町に対して早期下水道整備の要望に加え、当町は水道水源である御所ダムの上流域に位置しており、公共用水域の水質保全を図る必要からも早急な整備が望まれているところであります。</p> <p>このような状況を踏まえ、財政状況が厳しい中ではありますが、鶯宿幹線の未整備区間である県道盛岡鶯宿温泉線の戸沢橋から榊沢橋までについて早期の整備促進を要望いたします。</p>	<p>北上川上流流域下水道都南処理区鶯宿幹線の整備については、全体計画延長7,710mの内、平成26年度までに4,854m（63.0%）が完成しています。</p> <p>平成27年度は、天戸西処理分区の年度内の供用開始に向け、県道盛岡鶯宿温泉線の戸沢橋区間の水管橋築造工事を進めます。</p> <p>今後も県では、雫石公共下水道事業の進捗と調整を図りながら、榊沢橋までの整備を進めて行くこととしています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>